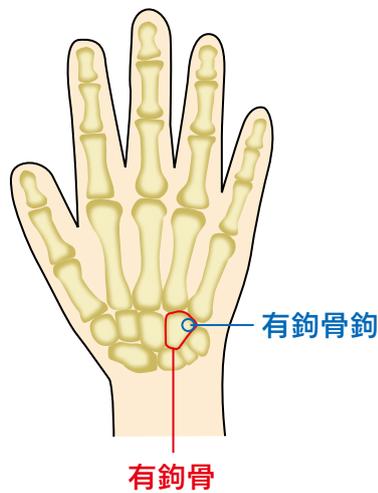
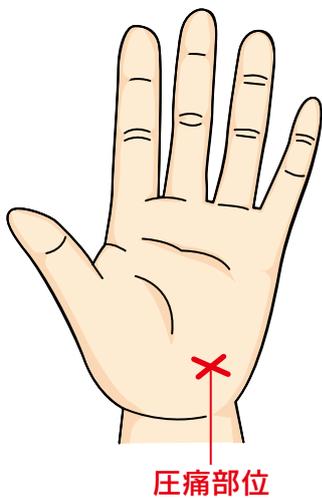


35

 ゆう こう こつ こう
 有鉤骨鉤骨折

● 症状 ●

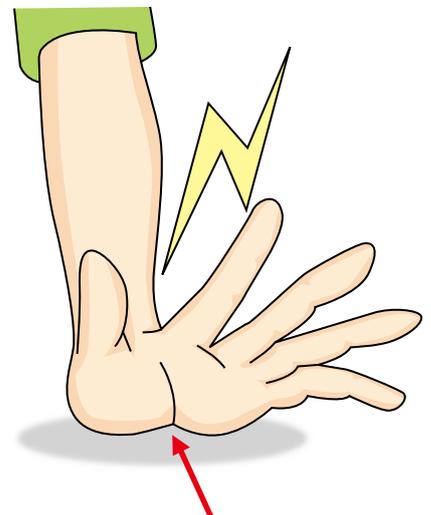
けがの直後では、小指の付け根と手首の間に痛みが生じます。疲労骨折では激痛なくスポーツ活動が続けられることもあります。時間とともに軽くなりますが、放置していると骨折部がつかずに偽関節※になり、小指が曲げづらくなったり、痺れたりすることがあります。



※偽関節とは？
骨折した骨がつかず、関節のように動くものをいいます。

● 原因・病態 ●

通常手のひらに直接強い力が当たって起こります。野球、ゴルフ、テニスのグリップエンドやバイクのハンドル等のほか、手をついての転倒が原因となります。また繰り返しの衝撃が原因となって疲労骨折することもあります。偽関節では小指を曲げる腱が切れたり、尺骨神経麻痺を合併することがあります。



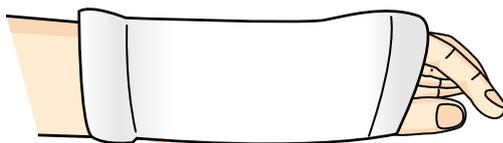
● 診断 ●

小指の付け根と手首の間を押して痛みがあれば、レントゲン検査を行います。
レントゲン検査だけでは診断できないことがあるため、CT、MRI検査が必要なこともあります。

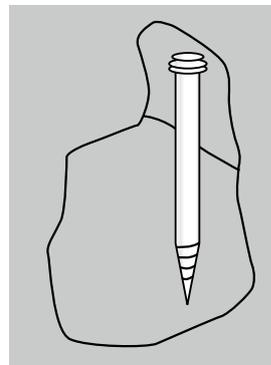


● 治療 ●

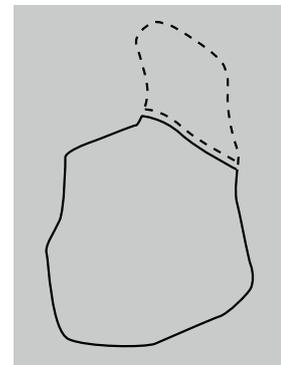
有鉤骨鉤は血行が悪いため、非常に治りにくい骨折の一つです。受傷直後に診断がついた場合、ギプス固定で治すこともあります。この固定が長期に及ぶことも多いため、近年では積極的に手術が行われています。手術治療はネジによる骨接合術と骨片摘出手術があります。偽関節やスポーツによる骨折では、早期競技復帰を考慮し、通常骨片摘出手術を行います。



ギプス固定



スクリュー固定



骨片摘出手術

手術治療

